

みながっ子

かしこく やさしく たくましく やりぬく



東広島市立三永小学校

【全校児童数】

1年1組	24名
2組	25名
2年1組	25名
2組	27名
3年1組	23名
2組	21名
4年1組	25名
2組	25名
5年1組	20名
2組	21名
6年1組	27名
2組	27名
すみれ	6名
たんぼぼ	3名
合計	299名



一人一人が目標をもって練習に取り組んでいます

第14代ふるさと三永の完成に向けて一生懸命に取り組む6年生の姿です。

教えてくださる指導の方のお話を素直に吸収しながら、練習することに上達しています。今年は、酒祭りのホールでご覧いただくだけでなく、学習発表会でもご披露する予定です。



平和について 考える



東広島市の平和学習バスが、数年ぶりに広島平和公園での実施となりました。

本校からは6年生の 藤川 翼希くんが参加しました。黒瀬町の「せせらぎホール」で行われた式典に参加した後、広島平和公園に向かいました。

77年前の夏、原子爆弾の犠牲になられた方々に思いを寄せながら、見て・考え・学んだ多くのことを全校児童に伝えて欲しいと思います。

体験を通じて知る 小学校での盲導犬授業

広島県・東広島ウエスト ライオンズクラブ

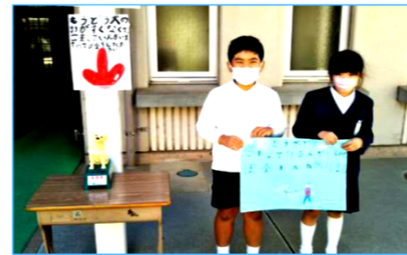
東広島ウエスト ライオンズクラブ(沖康仁会長/38人)は2014年から青少年健全育成の一環として、東広島市内の小学校の3・4年生を対象に、視覚障害者への理解を深めることを目的とした盲導犬授業を行っている。市内には全校児童数1000人以上のマンモス校から人口減少が顕著な地域の100人以下の学校まで33の公立小学校がある。そのうち授業を希望する小学校から年間6校を選出し、公益財団法人日本盲導犬協会 島根あさひ訓練センターから講師と盲導犬(PR犬)を派遣してもらって行う体験型の授業である。今年度もコロナ禍中であったが、子どもたちの学びを守るために学校、盲導犬協会、ライオンズが力を合わせて感染拡大防止対策を講じ開催することが出来た。

厚生労働省によると、盲導犬との生活を希望する視覚障害者は全国で約3000人と推定される(厚生労働省)が、盲導犬実働数は861頭、広島県ではわずか18頭(2021年10月時点)である。人口約19万人の東広島市には、盲導犬ユーザーは一人もいない。そのため子どもたちは盲導犬については机上で学ぶだけで、実際に街の中で会うことは極めて少ない。アイマスクを着けて視覚障害を疑似体験したり、白杖や手引き歩行をする他、盲導犬の必要性も学習する盲導犬授業は、貴重な経験だ。視力を失った時に死にたいとすら思った中途視力障害者が、盲導犬との出会いを通じて生きる喜びや楽しみを取り戻すことが出来たという話も聞く。盲導犬は生活の補助だけでなく、心にも寄り添うことが出来るのだ。

授業後、児童が書いた感想文が当クラブへ届く。毎回とても素直な感想に心打たれ、私たち会員にとって大変うれしく、励みにもなるものだ。11月9日に実施した市立三永小学校からは、「街頭募金をしている盲導犬しか見たことがなかったので、授業を受けて視覚障害者への思いやりやお手伝い出来ることへの関心が深まり、家族を交えての会話となりました」という感想が届いた。更に、同校は今期の指標で「自分たちで考えて行動する」というテーマを掲げているということで、授業後、子どもたちは「自分たちに何か出来ることはないか」を話し合い、募金活動と盲導犬についてPRする活動をしたのだという。手紙と共に届けられた貴重な募金1万3733円と児童の熱い思いを受け取り、盲導犬協会に届けることが出来た。協会の盲導犬育成費用は約90%が寄付で支えられているが、コロナ禍で募金額は減少しているという。子どもたちからの発案で実現した活動は、校長や担任教諭を始めとする学校関係者や保護者にも感動をもたらす出来事だった。

盲導犬育成には大変な時間とお金がかかる。候補となる子犬は生後2カ月齢から1歳前後までパピーウォーカーの家族の一員として自由に楽しく暮らしながら人間との信頼関係を築き、2年目からセンターでの訓練に入る。盲導犬の訓練には大きな愛情と優しさ、そして根気が重要だ。一つの動作を覚えるまでに毎日毎日同じことを繰り返し教え、小さなことでも成功した時には心から褒める。「グッドグッド」と褒める。それでも訓練終了後、盲導犬となるためのテストに合格するのは、10頭のうち3頭ほどだそう。私たちの盲導犬授業や街頭募金などで活躍しているPR犬は残念ながらテストでは不合格だった犬たちだが、とても利口でどこへ行ってもトレーナーの指示があるまで何時間でも静かに伏せて待つことが出来る。そして彼らの少し垂れ目で愛くるしい表情は、私たちに癒やしを与えてくれる。

未来に羽ばたく子どもたちに、この授業を通して人や動物に接する時に思いやりを持つこと、そして全ての出来事に感謝の気持ちを忘れずにいることを学んでほしいと願っている。



広報誌にも掲載されていましたが、これはネット版の記事を転載させていただきました。

後期より導入する自動対応電話について

先日プリントでお知らせいたしました通り、後期から「自動対応電話」を導入いたします。教職員の長時間労働の解消や、児童と向き合う時間の確保を目指した、働き方改革の推進の一環です。次の時間帯の電話対応を自動音声によるメッセージ対応とすることで、教職員が授業準備や学校事務に専念できる環境づくりに努めてまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。

- 運用開始 令和4年10月13日(木) ※試行運用 令和4年8月30日(火)～10月12日(水)
- 自動対応時間 平日 18:30～翌7:15 長期休業日の平日 17:00～翌8:00
休日(土曜 日曜 祝日 閉庁日) 終日
- 児童対応時間に児童に関わる事件・事故が発生した場合は、現在と同様に警察署など関係機関に連絡してください。

昨年度の取組が紹介されました

9月の行事予定

前期後半の現段階での予定です。
全てが予定通り行えることを願っておりますが、状況により変更する場合がございます。
ご理解・ご協力をお願いいたします。

日	曜	学校行事	下校時刻変更	14時50分	15時40分
1	木			一斉下校	
2	金			1・2年生	3～6年生
3	土				
4	日				
5	月			1・2年生	3～6年生
6	火			1・3年生	2・4～6年生
7	水			一斉下校	
8	木			一斉下校	
9	金	スクールカウンセラー		1・2年生	3～6年生
10	土				
11	日				
12	月	クラブ		1・2年生	3～6年生
13	火			1・3年生	2・4～6年生
14	水	心のサポーター		一斉下校	
15	木			一斉下校	
16	金	三永小学校教育研究会 ※弁当持参	一斉下校 14:25		
17	土				
18	日				
19	月	敬老の日			
20	火	木曜日程	1・3年生13:50	2・4～6年生	
21	水	木曜日程		一斉下校	
22	木	木曜日程 放課後子供教室		一斉下校	
23	金				
24	土				
25	日	町協役員会 市民スポーツ大会			
26	月	5年生社会見学		1・2年生	3・4・6年生
27	火	1年生社会見学		3年生	2・4～6年生
28	水	心のサポーター		一斉下校	
29	木	3年 福祉体験(盲導犬)		一斉下校	
30	金			1・2年生	3～6年生

ことばときこえの教室が設置されました



ことばときこえの教室が設置されました。
ことばときこえの教室は、通常の学級に在籍する障害のある児童生徒に対して、主として各教科等の指導を通常の学級で行いながら、障害に基づく学習上又は生活上の困難の改善・克服に必要な特別の指導を特別の場で行う教育形態をいいます。

本年度、三永小学校にことばときこえの教室(通級指導教室)が設置されました。
通級による指導というのは、通常の学級に在籍する障害のある児童生徒に対して、主として各教科等の指導を通常の学級で行いながら、障害に基づく学習上又は生活上の困難の改善・克服に必要な特別の指導を特別の場で行う教育形態をいいます。
昨年までは、本校の児童は御園宇小学校に設置されたことばときこえの教室に通うことになっていました。ほかの学校に行かなくてはいただけませんでした。
しかし、今年度、巡回指導という形(毎週金曜日)ではありますが、三永小学校に設置される運びとなったのです。
では、ことばときこえの教室がどんな教室なのか、また、どんな指導が行われるのか、紹介していきたいと思っております。



ことばときこえの教室 Q&A&C

Q どんな子どもたちのための教室ですか？

A 小学校・中学校に通い特別支援学級に在籍していない児童・生徒で、障害に応じた特別の指導を行う必要がある場合、通級による指導の対象となります。

- ・ 視覚障害
- ・ 聴覚障害
- ・ 肢体不自由
- ・ 言語障害
- ・ 自閉症
- ・ 情緒障害
- ・ 学習障害
- ・ ADHD(注意欠如・多動性障害)
- ・ 病弱および身体虚弱

学校教育法施行規則より
さまざまな指導を必要としている障害をもった子どもたちのための教室ですが、現在通っている、または、継続して相談を行っている子どもたちすべてが、「障害」という診断を受けているわけではありません。
もう少し、具体的にどんな子どもたちが指導を受けているか、言語障害を例にお話していきます。



例①発音の誤り：
「ちようね、てんていがね、ダイオンの。」
子どもたちの多くが成長していく過程の中で自然に身につけていく正しい発音。「きょうね、せんせいがね、ライオンの。」何も指導を受けなくても、いつの間にか正しく話すようになる子どももいますが、その一方で、長い間誤りが続いていく場合もあります。



例②吃音：「ぼ、ぼ、ぼ、ぼく、きよ、きょう、」のように、初めの音を繰り返したり、「ぼーくねえ。」のように引き延ばしたりする場合があります。吃音といわれる症状です。三歳ごろに初めて経験する場合があります。多く、よくなったり、つかえる回数が多くなったりと波がありながら継続したり、全く気にならなくなったりする場合があります。

次回に続く



自分の名前にある音が正しく言えなかった六年生の男の子。六年生になって初めてことばときこえの教室に来ることになりました。指導を始めて間もなく正しい音を身につけることができました。短期間の間に、習慣化していた誤りのくせを子どもと一緒に修正することができた一つの例ですが、こうして指導を早期に終了することもあります。入学してから様子をみている方もおられると思いますので、心配があればご相談ください。また、就学前の相談にも対応しています。

編集後記

本年度から、通級指導教室の先生が、週に一回の巡回指導をしてくださいました。そのために、昨年度までは、近隣校にある教室まで通って指導を受けていた児童も、三永小学校で安心して指導を受けることができるようになりました。

本年度本校に来てくださったのは、新迫健司先生(風早小学校)です。先生は、通級指導教室で多くの子どもたちに指導をされてきました。その経験から、子供たちの「困り感」やその対処方法に大変詳しい先生です。また、それらに関する多くの相談も受けてこられた先生です。

今回から学校だよりの「コーナー」を設置し、色々と教えていただく中で、考えを深めていきたいと思っております。

尚、新迫先生は週一回だけの勤務となりますので、ご質問やご相談等のご希望がございましたら、担任を通して学校までご連絡ください。